

FRANCE

南西フランス、ロマンティック・サーフシティ

フランスにサーフィンがもたらされたのは1956年。
ヘミングウェイの同名小説「日はまた昇る」を映画化するため、
脚本家ピーター・ヴィアテルがサーフボードを持ち込んだのがきっかけだ。
それから50年、発祥の地ビアリッツを中心にサーフ人口は増加の一途をたどり、
クイックシルバーなどはヨーロッパ市場で700億円超の売上を達成するほどの好況さを見せる。
近年ではWCTサーファーも輩出して、まさにサーフィン大国に肩を並べる勢いを見せるが、
とはいえフランスは、波だけを目的とするディスティネーションでは決してない。
たとえばファーストフードのチェーン店を見つけることすら難しいという、
歴史ある伝統的な文化を大切にするムードを味わえてこそ、
潜在の楽しみが何倍にもふくれあがる場所、それがフランスなのだ。

editorial consultant: TAKUJI MASUDA
principal photography: JUNSUKE OBI
edit & text: TAKASHI OSANAI



Meet the Romantic Surf Time

ナポレオン3世も愛した街、
ビアリッツからの南西フランスめぐり

principal photography: JUNSUKE OBI
edit & text: TAKASHI OSANAI



グランド・ブワージュから海に沿って南へ、一瞬視界を遮る岩場を過ぎると沖で波を待つサーファーが目に飛び込んでくる。ここがコート・デ・バスク。仏サーフィン発祥の地である

Meet
the
Romantic
Surf Time